実践のまとめ（小学校５年　外国語科）

授業公開日　令和６年　10 月 11 日　第５校時
指導者　新発田市立東豊小学校
教諭　園部　敬祐

１　研究テーマ

学習意欲を維持しながら、進んで言語活動を行う児童の育成
～学びの蓄積の可視化を通して～

２　研究テーマについて

(1)　研究テーマ設定の意図

『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語活動・外国語編』（以下、『解説』。）では、「平成 23 年度から高学年の外国語活動が導入され、児童の高い学習意欲、中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった成果が認められている」と述べられている。一方で、「学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じる」とも述べられており、高学年における学習意欲の維持・向上が小学校外国語教育における課題の一つとして考えられる。

学習意欲の維持が難しい要因の一つに、外国語の習得過程に反復練習が必要であることが考えられる。つまり、言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりといった言語活動を「繰り返し」行うことによって、活動が単調になってしまい、目的や意義・達成感などを見出せずに学習意欲が低下してしまうのである。

児童の意欲が低下する他の要因として、言語活動を行う上でなぜこのような活動を行うのか、目的が不明瞭であったり、彼らの興味・関心が低いテーマを扱っていたりといった状況が挙げられる。

そこで、これらの要因を解消することができれば、高学年においても学習意欲を維持することができるのではないかと考えた。つまり、児童にとって興味・関心の高いテーマについて、活動の目的を明確にし、その目的の達成に向けて取り組み、その成果や児童自身の成長を自覚することができれば、繰り返し行われる言語活動でも、学習意欲を維持しながら取り組めるのではないかと考え、本研究テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

①　目的意識を明確にした言語活動

言語活動を適切に成立させるための条件に「目的・場面・状況」が明確であることが挙げられる。児童は対話を通して新しい情報を得たり、心が動いたりするといったコミュニケーションの楽しさや大切さを実感することで、思考力・判断力・表現力が育まれると考える。そのため、自分の考えや気持ちを伝え合うことが必要であるため、具体的な場面設定を行う。また、「何のために尋ね合うか」という目的意識や、「どんな状況でのやりとりなのか」という状況設定を具体的に想定し児童と共有することで、言語活動に必然性をもたせ、主体的に活動に取り組む姿を見出したい。

②　振り返りの蓄積

単元の目標に照らして、自分の学びを振り返る場を設定する。その際、児童自身が授業を通して、どのようなことができるようになったか視点を与える。具体的には、単元の導入でどんなことができれば本単元のゴールである「推し」を紹介することができるか、学習計画を立て、振り返りシートの項目として組み込む。それらの項目を授業終末の振り返

りで達成できたかどうか自己評価をし、前回の記述や評価と比較して記述させる。これを記録として残し積み重ね、次時の冒頭に自分や友達の振り返りを確認、共有する時間を設ける。これにより、学習が進むにつれてできることが増え、学びが蓄積されていることを実感させ、学習意欲の向上に繋げたい。

(3) 研究テーマにかかわる評価

以下の２つの観点から評価を行う。

① 実践前後で外国語の授業意欲に関するアンケートを実施し、変容を見取る。（アンケート）

② 振り返りの記述や実践後のアンケートから、学びの蓄積を実感する旨の回答をした児童数の変容を見取る。（振り返り・アンケート）

３ 単元と指導計画

(1) 単元名

Unit5：My hero is my brother　（Here We Go 5　光村図書）

(2) 単元の目標

・紹介文から、人の職業や性格などを読み取ることができる。（読むこと）
・人の職業や性格などについて書くことができる。（書くこと）
・人の職業や性格などを言って、あこがれの人を紹介することができる。（話すこと[発表]）

(3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	・Who is this？やHe /She is ….などの表現や関連語句を理解している。〈知識〉 ・あこがれの人の家族関係、職業、性格などを伝える文を読んで意味が分かるために、必要な技能を身につけている。〈技能〉	・あこがれの人の紹介文から、その人の職業や性格などを読み取っている。	・あこがれの人の紹介文から、その人の職業や性格などを読み取ろうとしている。
書くこと	・Who is this？やHe /She is ….などの表現や関連語句を理解している。〈知識〉 ・あこがれの人の家族関係、職業、性格などを伝える文を４線上に書く技能を身につけている。〈技能〉	・自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。	・自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて書こうとしている。
話すこと（発表）	・Who is this？やHe /She is ….などの表現や関連語句を理解している。〈知識〉 ・あこがれの人の家族関係や職業や性格などを話す技能を身につけている。〈技能〉	・自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて発表している。	・自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて発表しようとしている。

(4) 単元と児童

① 単元について

本単元は、自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人を紹介することをねらいとしている。教科書ではあこがれの人を「Hero」と表現し、紹介する流れになっているが、児童により興味・関心をもたせるために、あこがれの人を「推し」と言い換え、学習を進めていく。「推し」の意味を検索すると、「他の人にすすめること。また俗に、人にすすめたいほど

気に入っている人や物。」（デジタル大辞泉）とある。自分がとても気に入っている人を友達に紹介する活動を、意欲的に活動に取り組む動機付けとして取り入れる。

また、外国語の授業を通して自分の「推し」を知ってもらい、友達に気に入ってもらうことで、嬉しい気持ちや達成感を得ることができ、目的意識をもって活動に取り組むことができると考える。「Good!」「Wow!」「Cool!」などのリアクションカードによる交流も、活動の目的を明確にする手立ての一つとして講じる。

言語材料については、直前のUnit４で「He / She can -.」を学習するため、本単元で新出の「He / She is-.」の文型ついても比較的容易に理解できると考える。しかし、職業や性格、家族関係を表す単語が多く出てくるため、言語活動やクイズ・ミニゲーム等を通して段階的・継続的に慣れ親しませる必要がある。

② 児童の実態

外国語科に対しては、全体的に意欲的であり、仲良く関わることができる。英語を話すことに関しては、物怖じせず積極的に関わろうとする児童が半数近くいる一方、数名の児童は活動に消極的である。書くこと・読むことにおいても、教師の話をよく聞き、気を付けなければならないポイントをメモしながらワークシートに練習したり、声に出して読んだりする児童が多数であるが、アルファベットの慣れ親しみが十分ではなく、英語を読んだり書いたりすることに苦手意識をもつ児童も見られる。

(5) 単元の構想

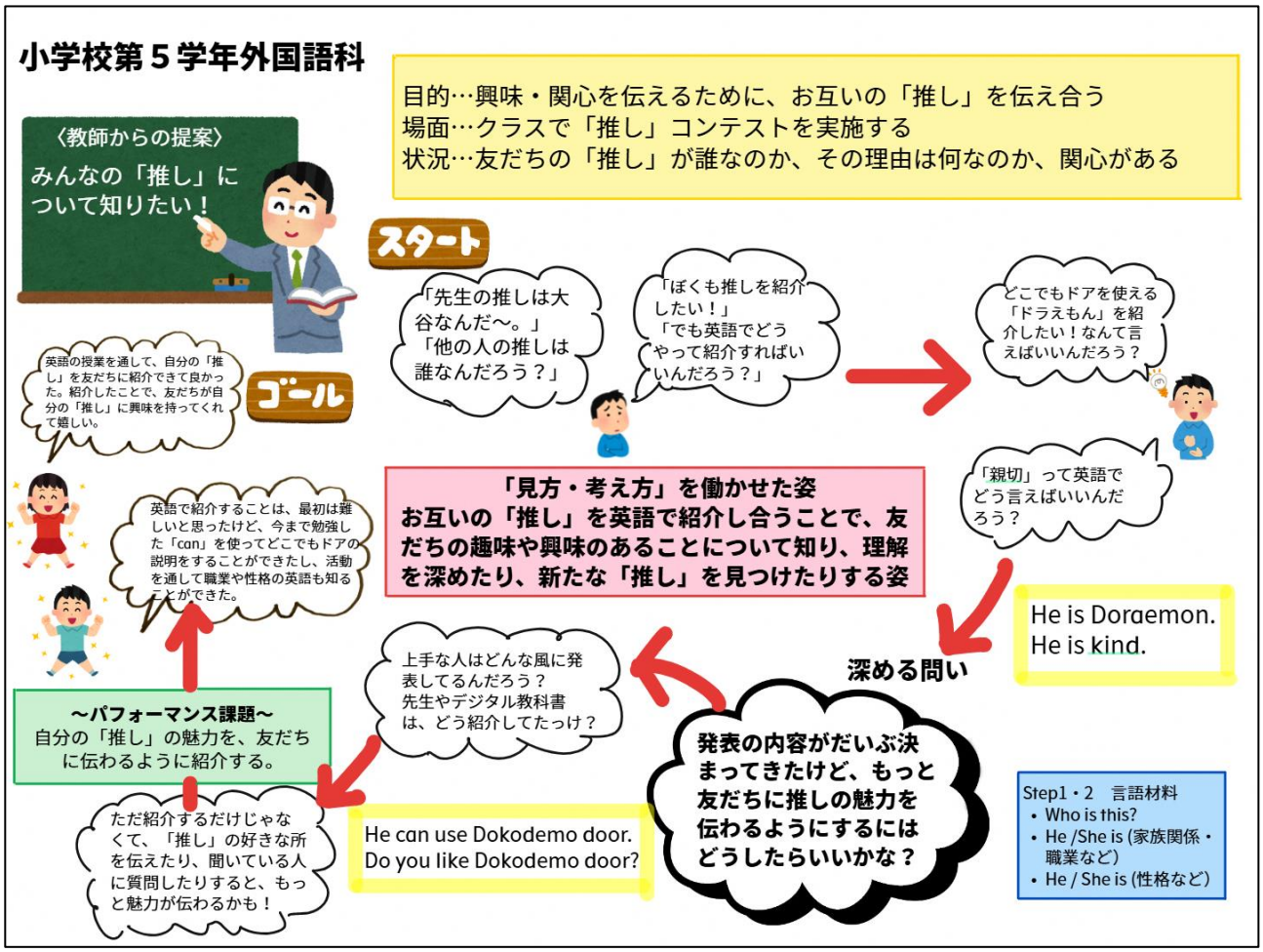
① 単元の指導計画と評価計画（全８時間）

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">○主な学習活動</td><td colspan="4">評　価</td></tr>
<tr><td>知技</td><td>思判表</td><td>態度</td><td>評価規準<評価方法></td></tr>
<tr><td>1</td><td>○単元の導入
教師の「推し」を紹介する。
・いきなりEngligh time①
（言語活動）
「推し」を英語で紹介する。
・単元の学習計画を立てる。
・振り返りを行う（１回目）</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="3">第１時～５時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>○人の職業・性格などを伝える言い方を知る
・いきなりEnglish time②
カードに書かれた人物・キャラクターを紹介する。
・Who is he /she?クイズ</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3
本
時</td><td>○人の職業・性格などを伝える
・いきなりEnglish time③
自分の「推し」を紹介してみる。
・私の「推し」スライド(シート)作成①
・振り返りを行う（２回目）</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

4	○人の職業・性格などを伝える ・いきなり English time④ 自分の「推し」を紹介してみる。				第１時～５時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。
5	○身近な人についての紹介文を読んだり話を聞いたりする ・「推し」を分かりやすく伝える工夫を考える。				
6	○自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人を紹介する ・ルーブリックを作成・共有する。 ・「推し」スライド(シート)を完成させる。 ・振り返りを行う（３回目）				**【話す 発表】** **知識** He / She is ….などの表現や関連語句を理解している。 **技能** 人の性格などを話す技能を身につけている。〈行動観察〉 **【書く】** **知識** He / She is ….などの表現や関連語句を理解している。 **技能** あこがれの人の性格などを伝える文を４線上に書く技能を身につけている。 〈ワークシート〉
7	○自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人を紹介する ・ペアやグループで、「推し」スライド(シート)を発表し合う。 ・ロイロノート「生徒間通信」機能を活用し、発表を聞いた友達に「リアクションカード」を送る。 ・全体の前で発表を行う。 （希望者）	○	○	○	**【話す 発表】** **思判表** 自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて発表している。 **態度** 発表しようとしている。 〈行動観察・振り返り〉
8	○単元のまとめを行う ・ロイロノート「テストカード」を使った小テスト（読む）を行う。 ・前時に発表した「推し」スライド(シート)を見ながら、英文を４線上に書き写す（書く)。 ・共有ノートを活用し、他クラスの「推し」スライド(シート)に「リアクションカード」を送る。 ・振り返りを行う（４回目）	○	○	○	**【読む】** **知識** He / She is ….などの表現や関連語句を理解している。 **技能** あこがれの人の家族関係、職業、性格などを伝える文を読んで意味が分かるために必要な技能を身につけている。 **思判表** あこがれの人の紹介文から、その人の職業や性格などを読み取っている。 **態度** 読み取ろうとしている。

					〈ワークシート・振り返り〉 【書く】 思判表 自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格などについて、簡単な語句や基本的は表現を用いて書いている。 態度 書こうとしている。 〈ワークシート・振り返り〉

② 単元構想図



４　本時の展開（本時３/８時間）

(1) ねらい

言語活動や調べ活動を通して、「推し」スライド作成に必要な職業名や性格などの語句に慣れ親しむことができる。

(2) 展開の構想

本時は、「推し」を紹介するためにどのような語句が必要か言語活動やクイズを通して学習し、紹介スライドの構想を立てる。

単元を通して児童が主体的に学習に取り組めるよう、目的意識や必要感をもたせるため帯活動「いきなり English time」を単元前半に継続して行う。この活動は、決められたテーマについて文字通り「いきなり」隣の人と話す活動であるため、児童の現段階での習熟度を自覚さ

せる意図がある。そのため、多くの児童は単元の始めではほとんど話すことができないことが予想される。しかし、どのようなところで困ったのか、逆にこんなことが言えたら紹介できそうなのか考えたり、共有したりする活動を繰り返し行うことで、児童が自分で「推し」紹介に必要な語句を自覚したり、そのような語句を学習したりすることをねらいとする。

(3) 展開

時間(分)	学習活動	◎教師の働きかけ ・予想される児童の反応	□評価　○支援　◇留意点
2	○挨拶	◎挨拶をする。	
13	○Small talk 	◎いきなり English time ①教師が例題を出題する。 ②お題となる人物について、ペアで紹介し合う。 ③「推し」についてペアで紹介し合う。	◇いきなり English time は帯活動として行う。 ◇Small talk とフィードバックを往還させながら活動を行う。
	○フィードバック	◎うまくペアに伝えることができたかどうか聞く。 ・「かっこいい」ってなんて言えばいいのかな。 ・もう一回聞きたいときはどうすればいいかな。 ・アイドルってなんて訳せばいいのか分からなかった。	○うまく伝えることができなかった場合、どこで困ったか、どのように言えば良かったか確認するなど、フィードバックを行う。
15	○Discussion	◎どうしたら「推し」の魅力を分かりやすく伝えることができるか考える。 ・はきはきと話すと伝わりやすいと思う。 ・「推し」の写真を見せながら紹介するといいと思う。 ・相手が「推し」を知っているかどうか聞いてみるのもいいかも。	○児童から出てきた発言を板書でまとめ、確認できるようにする。
	○調べ活動	◎出されたアイデアをもとに、「推し」の魅力を分かりやすく伝えるためにできることを行う。 ・ピクチャーディクショナリーで職業名を調べてみよう。 ・タブレットで「推し」の写真を探してみよう。	◇残り時間に応じて、タイマーで作業時間を設定する。 ○机間巡視で「推し」が決まらない児童や、困っている児童を支援する。
10	○Small talk 	◎調べたことを踏まえて、もう一度ペアに「推し」を紹介し合う。	◇Small talk とフィードバックを往還させながら活動を行う。
	○フィードバック	◎最初の紹介の時と比べて、言いたいことが伝わったかどうか聞く。 ・「推し」の職業を英語で言えた。 ・写真を見せながら紹介できた。 ・言いたいことを忘れてしまった。	態度 人の職業や性格などを話す技能を身に付けようとしている。(行動観察)

5	○振り返り	◎振り返りを書かせ、本時で学んだことや前時と比べてできるようになったこと、次回頑張りたいことなどをまとめる。 ・最初の紹介では、「推し」の職業を言えなかったけど、自分で調べて言えるようになりました。 ・話したい内容を考えたり、調べたりできたけど、話すときに言い方を忘れてしまったので、次は言えるようにしたいです。	

(4) 評価

・「推し」紹介や調べ活動を通して、必要な職業名や性格などの語句に慣れ親しもうとしている。　【態度（行動観察・振り返りシート）】

5 成果と課題

(1) 授業の実際

① 目的意識を明確にした言語活動

単元の導入時に児童と一緒に学習計画を立て、ゴールの見通しを共有した。具体的には、教科書の見開きページの様子を見て、登場人物が憧れの人物を紹介していることを捉えさせたのち、最終的に自分たちがどんな活動をして、どんなことができるようになれば良いか考えさせた。その結果、ゴールの姿としては「自分の『推し』を英語で発表できる。発表を聞いて、誰のことを『推し』ているのが分かる。」とし、そのために、「『推し』の名前や、できること、職業、性別、性格を英語で言える」を具体的な目標の１つとして共通認識を図った（図１　ピンク部分）。これらの項目を振り返りシートに反映させ、授業の最初や振り返り記入時に確認させることで、単元を通して目指す姿を意識させるよう促した。

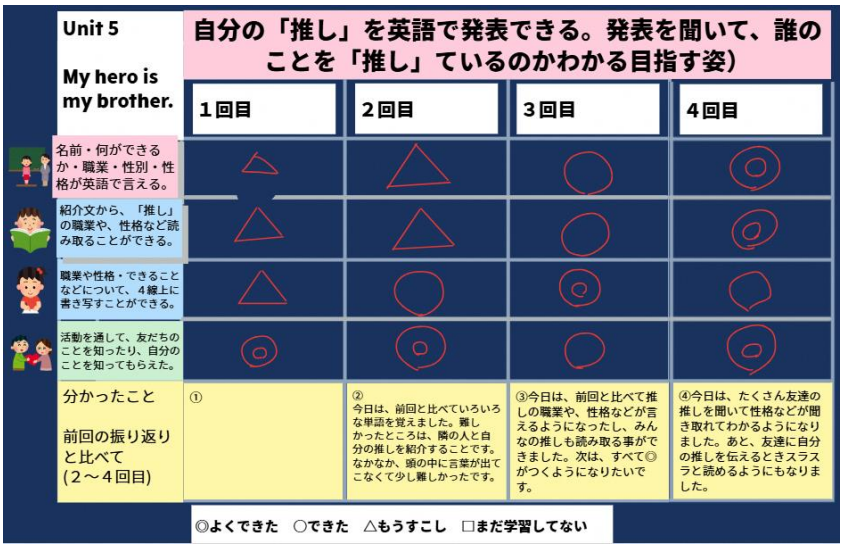


図１　振り返りシート

② 振り返りの蓄積

振り返りシートのレイアウトを、単元を通して１枚のシートで行うように工夫した。これにより、回を重ねるたびに自己評価が改善し、次第にできるようになっていくことが視覚的に実感できるようになった。また、記述欄に「前回の振り返りと比べて」という文言を追加したことで、記述の内容に関しても前回の振り返りと比較してどう変容したか、具体的に記述する児童が多く見られた（図１　黄色部分）。

(2) 研究テーマに関わる評価と成果

① 「学習意欲」に関するアンケートの分析

２学期初回の授業（実践前）と単元終了後（11 月中旬）にアンケートを実施した。項目としては、授業の楽しさと理解度について、４段階（楽しい・よく分かる/少し楽しい・大体わかる/あまり楽しくない・少し難しい/楽しくない・難しい）で調査した。結果は表１のとおりである。

授業の楽しさに関しては、肯定的割合が実践前後で若干の低下が見られたが、どちらの結果も 90%後半を維持することができた。

表１　実践前後におけるアンケート集計結果

難しさ（実践前）	簡単	まあ簡単	少し難しい	難しい	欠席	合計人数
５年全体(人)	28	40	15	0	3	83
欠席除く割合(%)	33.7	48.2	18.1	0.0		
肯定的割合(%)	81.9	否定的割合(%)	18.1			

難しさ（実践後）	簡単	まあ簡単	少し難しい	難しい	欠席	合計人数
５年全体(人)	21	45	11	2	7	79
欠席除く割合(%)	26.6	57.0	13.9	2.5		
肯定的割合(%)	83.5	否定的割合(%)	16.5			

楽しさ（実践前）	楽しい	少し楽しい	少しつまらない	つまらない	欠席	合計人数
５年全体(人)	65	17	1	0	3	83
欠席除く割合(%)	78.3	20.5	1.2	0.0		
肯定的割合(%)	98.8	否定的割合(%)	1.2			

楽しさ（実践後）	楽しい	少し楽しい	少しつまらない	つまらない	欠席	合計人数
５年全体(人)	54	23	2	0	7	79
欠席除く割合(%)	68.4	29.1	2.5	0.0		
肯定的割合(%)	97.5	否定的割合(%)	2.5			

授業の理解度については、肯定的割合が実践前後で若干の上昇が見られた。また、数値も 80%以上と高い数値を維持することができた。

以上のことから、児童は学習意欲を維持しながら楽しく活動に取り組めたといえる。

②「学びの蓄積」に関する振り返りの記述やアンケートの分析

単元終了後のアンケートで、学びの蓄積に関する項目「２学期の授業やこれまでの活　動を通して、外国語の力が伸びていると実感できますか？」にて、４段階（実感できる/少し実感できる/今までと変わらない/むしろ下がった）で調査した。結果は表２のとおりである。

数値を見ると肯定的割合が 90%を超えており、多くの児童が活動を通して力の伸びを感じていることが分かった。

また同様のアンケートで、なぜそのように回答したか理由を記述する項目を設けた。その結果をユーザーローカル社の「AI テキストマイニング」による分析を実施した結果、図２のような結果が得られた。多くの児童が「前より英語を話せるようになった」「言えることが増えた」といった具体的な成長を実感しており、また自己評価についても、「英語がだんだん上手になってきていると思った」「英語で推しを紹介することができるようになった」というような記述が見られ、活動を通して英語力の向上を実感し、自信をもって授業に臨んでいることが分かった。

表２　「学びの蓄積」に関するアンケート集計結果

力の伸び(実践後)	実感	少し	変化なし	下がった	欠席	合計人数
５年全体(人)	27	45	7	0	7	79
欠席除く割合(%)	34.2	57.0	8.9	0.0		
肯定的割合(%)	91.1	否定的割合(%)	8.9			

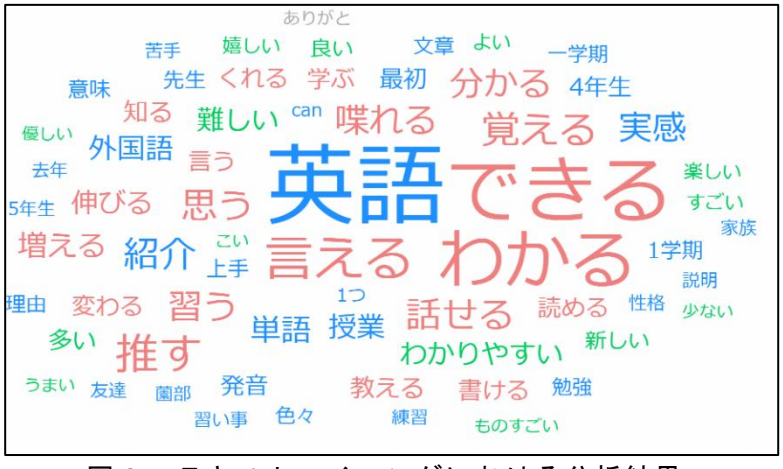


図２　テキストマイニングにおける分析結果

(3) 研究の反省と今後の課題

憧れの人物を紹介するという単元で、「推し」という言葉を用いて児童に活動を提案した。多くの児童が「推し」という言葉に好意的な反応を示し、その後の活動も意欲的に取り組むことができた。このことから、児童の興味・関心に沿った単元構成にすることの重要性を改めて実感することができた。また、児童の「推し」も図３を見ても分かるように、スポーツ選手・アニメキャラ・ペット・戦国武将など多岐に渡っていた。そのため、振り返りでも「〇〇さんの推しが△△だと分かってよかった」など、活動を通して友達の新たな一面を発見する記述が見られた。

一方で、「推し」や「憧れの人」がいない児童も少数であるが見られた。周りの友達が、「推し」についてチャートやスライドでまとめている中、なかなか対象となる人物やキャラクターが決まらず、意欲が低下してしまう様子も見受けられた。このような児童には、対話を通して好きなものや趣味を聞き出して「推し」を提案したり、「いきなり English time」で扱った人物やキャラクターの中から選ぶよう促したりしながら対応した。しかし、このような手法で決めた「推し」では、児童が本当に伝えたい内容ではない場合が多く、友達と伝え合う活動の際には、消極的な様子であることが多かった。このような課題を踏まえ、多くの児童が意欲的に活動を進められるように、今後も様々な手立てを講じながら授業改善に努めたい。

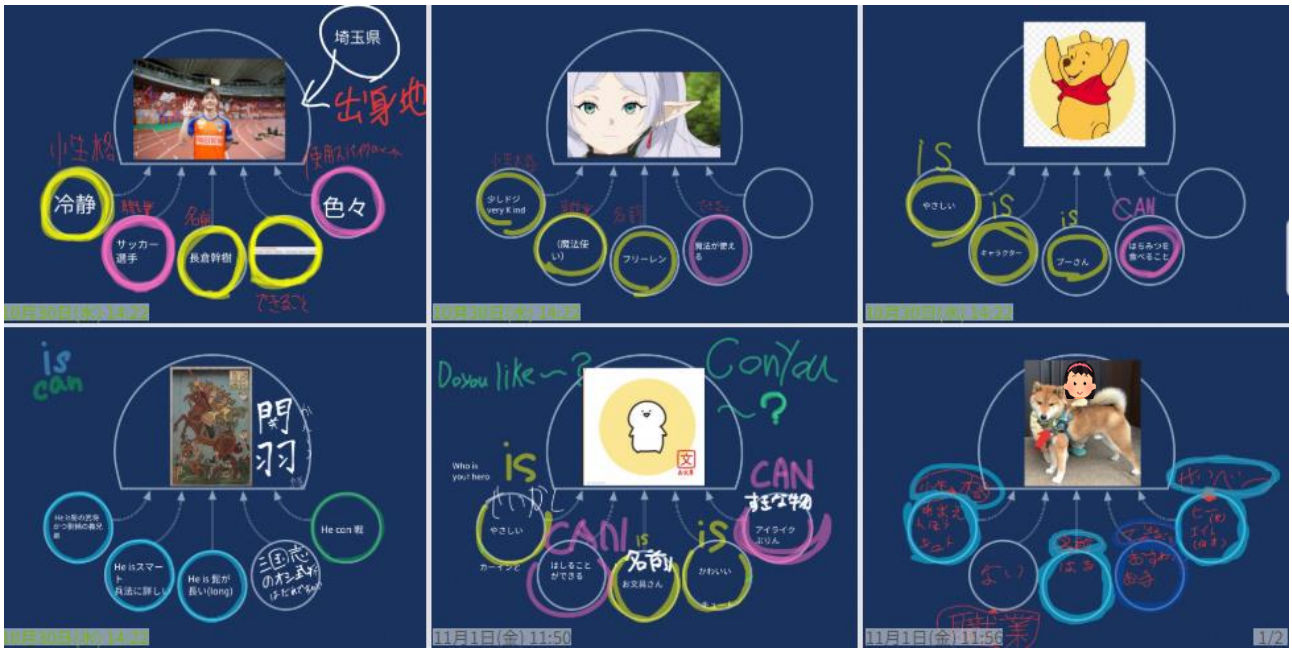


図３　児童の「推し」紹介チャート

<引用・参考文献等>

・文部科学省(2018)『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』 開隆堂.
・直山木綿子(2021)『小学校外国語教育の指導と評価』 文溪堂.
・「デジタル大辞泉」
https://www.weblio.jp/content/%E6%8E%A8%E3%81%97?dictCode=SGKDJ 小学館.
(2024.10.2 閲覧)
・「ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析」
https://textmining.userlocal.jp/results/H3p52KsNaJhFtvGLW1e3xsCSiRF7NVZw#analyze
(2024.12.18 閲覧)

・青山祥子(2023) 「言語活動の充実を目指した ICT の効果的な活用「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に着目して」 鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要 第 14 号 pp15-24.
・石森広美(2024) 「「相手意識」を高める小学校外国語教育の授業と指導法の工夫：異校種交流に着目して」 北海道教育大学紀要 （教育臨床研究編） 第 74 巻 第２号 pp.45-59.
・速渡恵理(2023) 「児童の動機づけを高める小学校外国語科の授業実践―動機づけストラテジーと自己調整理論に着目して―」 鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要 第 14 号 pp.37-48.
・大江朝美(2024) 「「指導する」から「共につくる」小学校外国語教育に関する一考察―効果的な CAN-DO リストの在り方を考える―」 山形大学大学院教育実践研究科年報第 15 号 pp.292-295.